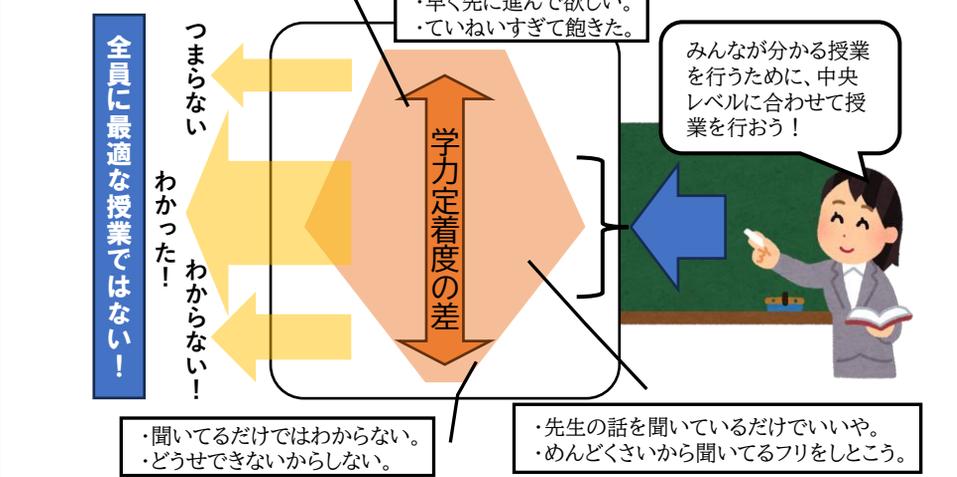


文部科学省が令和時代に目指す授業改善が全国で推進！ 荘内中学校

日本の学校教育における授業は、一つの学級単位で黒板を使いながら教師が一斉に学習内容を教授するという「一斉指導」を行っていました。今、その授業スタイルを改革する新しい学びのかたちが求められています。

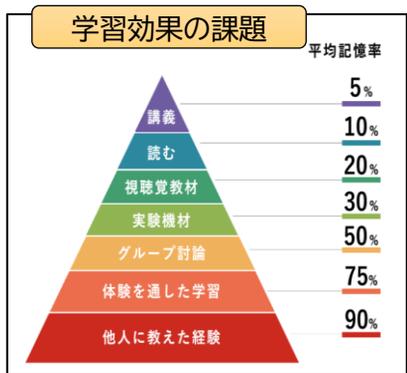
一斉指導の問題点

一斉指導とは、先生が学習内容を説明し、全体へ発問し、板書をノートに書き写す、という学習活動です。ある程度の成果はありましたが、時代の流れとともに課題も議論されるようになりました。



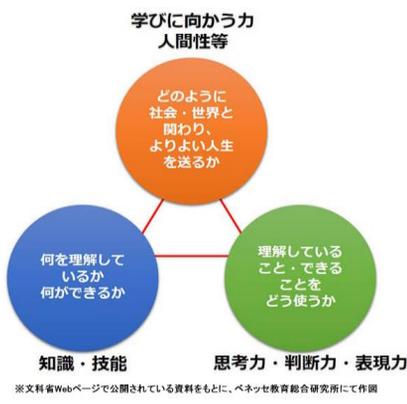
- 理解の早い生徒が自分の思うように先に進めない。
- 理解が困難な生徒に教師の個別支援が困難である。
- 長い説明を我慢して聞けない。(聞いているフリをしている生徒が多い。)
- 指名して発言させるだけでは、一部の生徒が発言するだけで終わってしまう。
- ていねいに授業を進めすぎて時間不足となり、定着活動時間の確保が困難である。

文部科学省が示す新しい学力観とは、自ら学ぶことの大切さや、自発的な思考力を重視した学力観です。激しく変化する社会の中では、主体的な学習者として生き、課題を発見してゼロから何かを生み出していく力が必要です。自らのよさや可能性を発揮して様々な対象に進んでかかわり、自分の課題を見つけ、主体的に考えたり、判断したり、表現したりする授業等の教育活動が求められ、そのために評価の観点も変わりました。

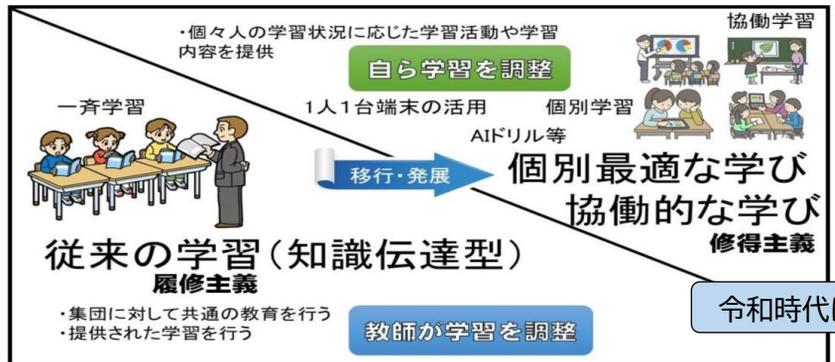


説明を聞いたり整理する個人学習活動よりも、グループ討論や他者に説明するなどの協働的学習活動の方が学習効果が高いといわれるようになりました。

時代の変化による新しい学力観



だから、高校も含め、全国の学校で「協働的な学び」「個別最適な学び」を実現する授業改善が推進されています。



令和時代に必要な資質能力を育成する授業へ！！

小学校から高校までのすべての学校で、教師が教授する知識伝達の授業から、子どもが主体的な学習者となり個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進めながら求められる資質能力の向上に取り組んでいく授業に改善していきます。そこでは教師は学級全体の学びを進めるコーディネーターとなり、個別支援が必要な生徒への支援者となります。



令和の授業改革を実現するためのGIGAスクール構想

GIGAスクール構想で導入された学習用端末を有効に活用すれば、生徒は自分に適した方法や問題を選択して個別最適な学びを実現できます。また、他の生徒の考えを簡単に共有したり、グループ協議を整理したり、アウトプット活動も効率よく進められます。

荘内中学びスタイル(先行学習を基盤とした協同学習)&ICT徹底活用を進めながら、令和時代の望まれる授業を研究していきます！